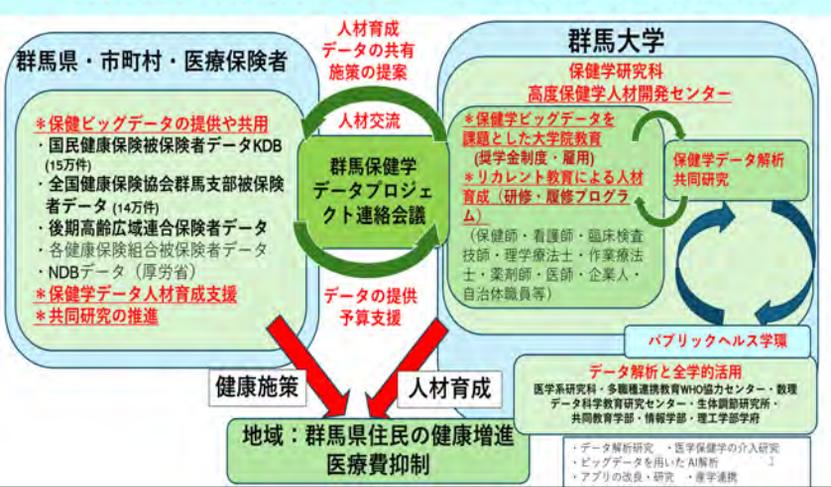


高度保健学人材開発センターからのお知らせ 日本初群馬モデルの挑戦：保健ビッグデータで拓く未来の健康社会

高度保健学人材開発センター データ解析と人材育成支援



R6第2回群馬保健学データプロジェクト連絡会議の開催

群馬大学関係者（保健学研究科、医学系研究科）、群馬県（健康長寿社会づくり推進課・国保医療課）、市町村代表（前橋市・高崎市・大泉町）、全国健康保険協会群馬支部、群馬県国民健康保険団体連合会、群馬県後期高齢者広域連合の代表者等が集まり、令和6年度のデータ分析に関わる市町村説明会や研究実績の報告を行い、令和7年度以降の共同研究や教育について意見交換を行いました。

医療保険者から群馬大学への期待：

現在、それぞれの団体が保険者として独自にヘルス事業を実施し、蓄積されたデータも各団体が個別に解析しているのが現状です。今後は、**群馬大学がハブとなり、これらの保健データを統一的に管理・解析する体制が構築されます。** **保険者とアカデミアが連携し、ヘルスビッグデータを活用するための共通基盤**がいよいよ整いました。



分散する保険者データの統合管理と大学の役割

令和7年度からは、高度保健学人材開発センターにおいて、**国民健康保険被保険者データに加え、全国健康保険協会群馬支部の被保険者データ、群馬県後期高齢者医療広域連合の被保険者データ**も対象に解析を進めます。こうした実践的な解析を通じて、ヘルスビッグデータ活用について現場で即戦力として活躍できる人材——すなわち、**「スーパー高度保健人材」**の育成を推進していきます。

群馬大学医学部保健学科及び大学院保健学研究科では、社会の課題解決を目指して、研究、教育、地域保健活動、国際保健活動に積極的に取り組んでいます。これらの活動を進めるための組織として保健学研究科附属研究・教育センターが設置され、このセンター内には5つの推進室があります。今回は高度保健学人材開発センターからの報告になります。

私たちの活動をご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

アンケートへのご協力をお願いいたします。⇒

お問合せ先：保健学研究科長 齋藤貴之 (tsaitoh@gunma-u.ac.jp)

